



School Management Review

ワークライフバランスの実現への道は険しい？

近年、ワークライフバランスの重要性については皆さんよく耳にされていることと思います。またこの実現に向け、学校や団体では様々な取り組みが行われており、それぞれの事例がメディア等で取り上げられることもあります。

まずワークライフバランスの定義ですが、「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」と内閣府の「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」に記載されています。豊かな人生を歩むためには、仕事以外にも行うべきことは沢山あり、そのバランスを上手にとることが極めて重要であることは間違いのないことだと思います。

では、実際はどうなのでしょう。20代から50代の男女720名を対象としたワークライフバランスに関する調査結果をご紹介します。まず、ワークライフバランスを実現するために必要な働き方の変革として上位に挙げられていることは以下のようになっています。

- ① 無駄な業務や会議の削減 46.4%
- ② 業務時間の短縮 35.1%

次に、理想のワークライフバランスを阻害する要因として上位に挙げられていることは以下のようになっています。

- ① 無駄な業務の発生 45.0%
- ② 変化に対して保守的 26.3%

無駄と感じる業務や会議を削減し、業務時間の短縮を図りたいと考えてはいるものの、実際には何らかの理由で無駄な業務を削減できないことによって、ワークライフバランスを実現できていないといった構図のようです。また、無駄な業務を削減できない要因として、組織または人が保守的で変化を受け入れることに抵抗を示していることも考えられます。この調査結果の裏には、個人の力で阻害要因を取り除くことの難しさが見えるような気がします。

さらに、離職理由に関する調査結果では「労働時間（残業）に不満（男性38% 女性41%）」がトップになっています。長時間労働が発生する原因としては、人手不足や業務量の過多など、様々なことが考えられますが、無駄な業務が長時間労働を助長し、結果的に離職に繋がっているとすると大変残念なことです。

個人だけではなく、組織全体として業務の目的を常に認識し、最良の手段を考えながら業務にあたり、少しずつでも業務の効率を高めていくことがワークライフバランスを実現するためには不可欠なことと言えます。

（弊社ブログ「寝ても覚めても学校のこと。」2016年8月2日付記事を改編し掲載しています）

1 **School Management Review**
ワークライフバランスの実現への道は険しい？

2-3 **《連載》事業計画を作ろう！**
第6回 主観的に現状分析する（SWOT分析）

3 **学校経営トピックス**

4 **会議のコツをひとつまみ**
ホワイトボードを活用しよう

長月
September

9

2016

第6回 主観的に現状分析する(SWOT分析)

今回はビジョンとシナリオについて考えてみました。ビジョン、すなわち「あるべき姿」はできる限りはっきりと描き、それを組織内で一本化することが重要です。そして、そのあるべき姿に至る道筋がシナリオ（戦略）であり、学校におけるシナリオ作成の際の最重要ファクターは「学校規模」であるため、まずは御校における適正規模を模索するところからシナリオ作りを始めていただくようお願いいたしました。

このように、事業計画策定の際には「将来像」から考え始めることが重要です。現状ありき、の考え方は本来の目的地にたどり着くことが難しくなってしまいますから、ぜひ未来を描くことにしっかりと時間を使っていたきたいと願っています。

一方で、現状を把握することが重要でないわけではありません。特に、御校がこれまでの活動の中で培ってきた強みや特色は、今後に向けてもぜひ活かしたいですし、活かすべきです。その魅力が未来の子どもたちとその保護者に御校を選ぶ重要な要素になることは間違いありません。

現状分析を効果的、効率的に実施するための枠組として、「SWOT分析」というものがあります。これは経営環境を「内部」と「外部」の2つに分け、さらに前者について強み（Strength）と弱み（Weakness）、後者について機会（Opportunity）と脅威（Threat）とに分類するという、代表的な経営フレームワークです。

SWOT分析の特徴は「主観的で構わない」という点にあります。もちろん、何らかの客観的な情報に基づいて実施してもいいのですが、あくまでも経営に携わる方々の思考の整理としてご活用いただきたいので、自らの頭の中にある知識、あるいは自らご経験を通じて感じられたところなどを率直にご記載いただければと思います。

そして、S・W・O・T 4つの中で特に重点的に抽出していただきたいのが、先ほど申し上げた「S＝強み」です。実際にSWOT分析をやってみると実感できることですが、弱みはいろいろ出てきても、強みがなかなか思い浮かばないことがよくあります。普段から難題を目の前にされている経営陣の皆さんは、日常的に弱みを感じることはあっても、強みを意識することは学校説明会の時くらいかもしれませんので、なかなか強みが出てこないのです。しかしながら、御校には必ず強みがあります。そしてその強みが研ぎ澄まされると「独自」「唯一無二」のものへと昇華していきます。そうなればその点における競争相手はいなくなります。強みを活かした学校経営に向け、ぜひこのSWOT分析を活用してみてください。

SWOT分析・クロス分析シート

学校(法人)名 _____

氏名 _____

強み (Strength)	弱み (Weakness)

着眼点例
 教育内容
 教育技術
 生徒児童
 教職員
 価格
 募集・広報
 立地・環境
 施設設備
 財政・収支

着眼点例

規制	Opportunity 機 会	
経済		
市場・顧客		
雇用		
競合		
技術		
資金		
規制	Threat 脅 威	
経済		
市場・顧客		
雇用		
競合		
技術		
資金		

強みを活かして機会に乗る攻勢シナリオ	弱みを克服し機会を逃さない克服シナリオ

▲学校法人専用SWOT分析・クロス分析シート (ワイズコンサルティング作成)

なお、上図にはSWOT分析とともに「クロス分析」ができる箇所も設けてあります。クロス分析はその名の通り、S・WとO・Tをそれぞれ掛け合わせてシナリオを考察するものです。ここでも強みを特に意識するようにして、「S×O（強みを活かして機会に乗る攻勢シナリオ）」を重視してみましょう。強みを抽出することと同様に、政策や世間の動きを機会と捉えることもまた難しく感じる方もいらっしゃると思いますが、頭と心を柔軟にして、常日頃からこのSWOT分析・クロス分析を実施していただくと経営感覚が養われることでしょう。ぜひチャレンジしてみてください。

学校経営トピックス ～7月掲載ブログより～

- 2016. 7. 29 大阪府公立高校進学フェア2017
- 2016. 7. 27 「お金を貯める」より難しいこと
- 2016. 7. 19 ハローワークにおける求人票の記載内容と実際の労働条件の相違に係る申出等の件数
- 2016. 7. 14 残業を減らし、休憩を取ることは可能でしょうか
- 2016. 7. 8 学校における熱中症対策

学校経営ブログ「寝ても覚めても学校のこと。」 <http://ysconsult.hatenablog.com/>



理事会、評議員会、各種の委員会、部会、そして職員会議…

ミーティングや打ち合わせなども含めると、人が集って話し合うことは日常茶飯事です。

そんな会議にちょこっと工夫を加えてみませんか。ほんの少しの隠し味が、生まれる成果を豊かにしてくれますよ。

ホワイトボードを活用しよう

「また始まっちゃったよ…その話、さっきも聞いたんだけどな」

同じ話、似たような話が同じ会議の中で何度も繰り返し登場すること、ありますよね。同じ話の繰り返しというのは場の不快指数を高めがちで、そんなときにはあちこちからため息が漏れることもしばしば。ただ一方で、このような繰り返し発言をされるご本人には悪気があるわけでもなく、単に「念を押さなくちゃ」「ちゃんと主張しなくちゃ」という思いがそうさせているだけ、というのが一般的です。つまり、「自分の言ったことがちゃんと伝わっていないのではないだろうか」「自分のことが軽んじられているのではないだろうか」との疑念がややエスカレートして、繰り返し発言につながってしまうことが往々にしてあるのです。

そんなときには「その発言はちゃんと取り扱われていますよ」ということを発言者に分かってもらうことが大切です。それを実現できる方法はいたって簡単。今回のテーマである「ホワイトボード」を使って、発言を書き留め、全員に見える状態にしておくのです。

私はよく「空中戦」という言葉を使うのですが、会議で議論がかみ合わないことがよくあるのは、それが空中戦になってしまっているからです。空中戦というのは、書き留めた資料もないままに各自が思い思いの発言を続けている状態のこと。こうなると、会議は結局目的地が分からなくなってしまう、思った成果を得られません。会議中に出てきた発言を全員が等しく覚えておくことはほぼ不可能なのですから、それらを書き留めておき、全員が常に確認できる状態にしておくことで空中戦は簡単に防げるのです。



お互いの主張が平行線をたどっているとき、あるいは議論が堂々巡りになって結論に近づけないときなども同じこと。数々の発言の中で何が論点になっているのかを見出し、そこに集中することで事態を打開できますから、やはり発言を記したホワイトボードが非常に有効な道具になり得ます。

仕事柄、あちこちの会議にお伺いする機会の多い私ですが、学校での会議にはほとんどホワイトボードが使われていません。（電子）黒板を使い慣れた先生方が集う場所なのに…と、とても残念です。ホワイトボードがなければ模造紙でも構いませんし、パソコン・プロジェクタ・スクリーンでももちろんOKです。全員が発言内容を確認し、議論の論点を確認できるよう、「話題の見える化」に努めてみましょう。

学校経営のことなら…

未来へつなぐ、夢がある。



株式会社ワイズコンサルティング/ワイズ税理士・診断士事務所

TEL (06) 6484-7513 FAX (06) 6484-7518 E-mail: info@ysmc.co.jp

URL: <http://www.ysmc.co.jp>(会社) <http://www.ystax.jp>(事務所)

Facebook[®] -ジ: <https://www.facebook.com/ysconsult>